

第 7 回 宇都宮市河内自治会議

日 時：平成25年1月29日（火）

午後2時00分～

場 所：河内地域自治センター

第1・2会議室

次 第

1 開 会

2 協議事項

（1）地域のまちづくりに関する施策の提案（テーマ：「教育・文化，健全育成」）について

①提案書（案）について・・・・・・・・・・【資料1・2】

3 その他

（1）次回の開催日程について

（2）その他

4 閉会

(案)

提 案 書

地域のまちづくりに関する施策について

【テーマ】教育・文化，健全育成



平成25年2月

宇都宮市河内自治会議

も く じ

1. はじめに	1
2. テーマの設定	2
3. 河内地域の「教育・文化，健全育成」についての提案	
(1) 提案への取り組み	4
(2) 現状と課題と目標	5
(3) 実現方策と実現プラン	6
4. 審議の経緯	10
5. 委員名簿	11

【表紙の写真】 下組の天棚について

下田原町の下組若衆会に伝わる天棚が1968（昭和43）年以來44年ぶりに組み立てられ、下組自治会が10月28日に下組公民館で開いた「下組まつり」で公開されました。

天棚は、お盆に行われる天祭で使用される組み立て式の2階建て屋台です。五穀豊穰や無病息災を祈願する天祭は、宇都宮とその近郊に見られる独特の風習です。下組の天棚は江戸後期から66戸の若衆会で引き継いできました。

1 はじめに

地域のまちづくりに関する施策についての提案は、市長の諮問に応じて合併市町村基本計画の執行状況に対して意見を述べることも、自治会議が担う大きな役割であり、河内地域の目標像である『水と緑に囲まれ やさしい居住空間にあふれる住みやすい地域』の実現に向け、現在の地域の現状と課題を理解し、魅力ある地域の将来像を描き提案するものです。

これまで、第1期（平成19年度～20年度）においては、「暮らしやすく、触れ合い交流に満ちた地域に向けて」をテーマに6つの提案をしました。また、第2期（平成21年度～22年度）においては、「住みやすく、生きいきとした地域を目指して」をテーマに7つの提案をまいりました。

今回の提案にあたりましては、これまでの提案とはスタイルを変え、これからのまちづくりは地域が自ら取り組むことを基本に、住民自治の観点から次の3点を念頭に取り組みをはじめました。

- 地域の多くの人の意見を集約した提案とする。
- 自分たち（地域）に『何が出来るか』を常に意識する。
- 10年後の理想と実現性を描く。

このような考えのもと、現状の把握や課題の抽出、将来の予想などについて話し合い、取り組みの方向性を導き出して、地域全体でそれぞれの立場から目標に向かって活動できるよう、実行性（実効性）のある提案となるように心掛けました。

河内地域は、豊かな自然環境と住環境の整った住宅地域が調和しながら発展してきました。今後もこれらの地域の特性を生かしながら、特色あるまちづくりを進めていくためには、まちづくりを担う新たな人材を発掘し、地域活動のリーダーやボランティアの育成が求められています。さらに、地域の多くの方が力を合わせて、継続的に取り組む活動の場として、まちづくりや生涯学習の機能も兼ね備えた地域自治拠点の整備が急がれるところです。

この提案書が、今後の河内地域のまちづくりを進めていくうえで、本市の中でもより一層輝きを増し、誇れる地域として持続的に発展していく一助となれば幸いです。

2. テーマの設定

(1) 設定の考え方

これまで2回の提案におけるテーマの設定は、特定の分野に絞込み、これを掘り下げて検討していく手法を取っていました。

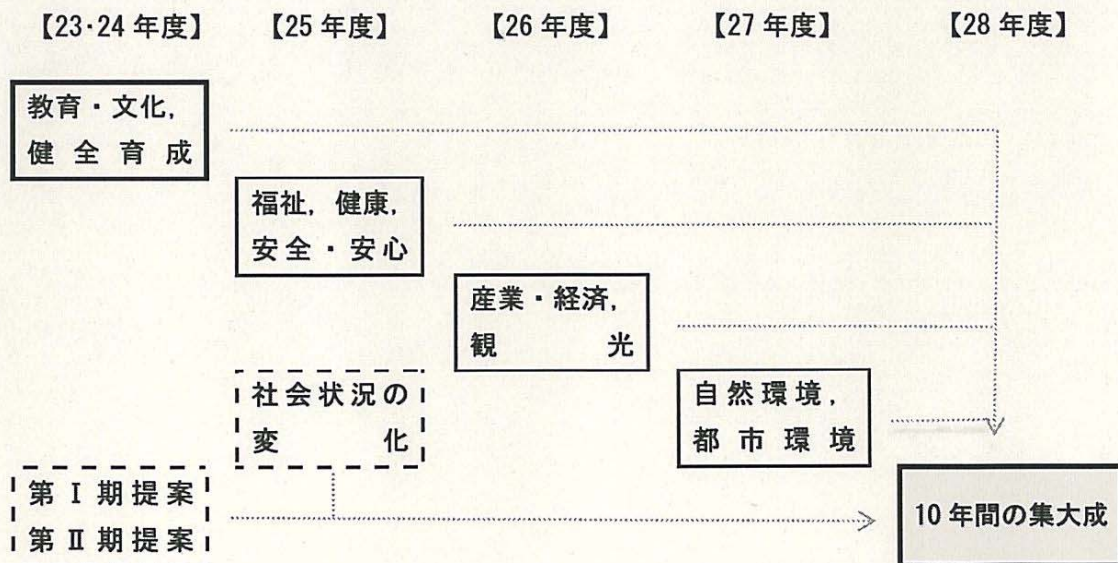
今回のテーマの設定にあたっては、合併後6年目を迎え自治会議も中間点を過ぎたことから、最終年度を見据えて長期的な視点に立って検討していくこととしました。

具体的には、地域の様々な課題をすべて洗い出し、分野別に体系化することにより、提案内容に統一性や継続性を持たせることとしました。

また、地域の10年後の姿をイメージし、地域の多くの皆さんが様々な形で、まちづくりに関わっていただけますよう、より身近でわかりやすい提案内容としました。

(2) 計画的な取り組み

テーマの設定にあたりましては、宇都宮市が取組む主要な施策としての25項目の中から、地域の特性等を考慮して9項目に絞り込みました。さらに、類似の分野を4つのテーマに集約して、下記のように計画的に取り組んでいくこととしました。

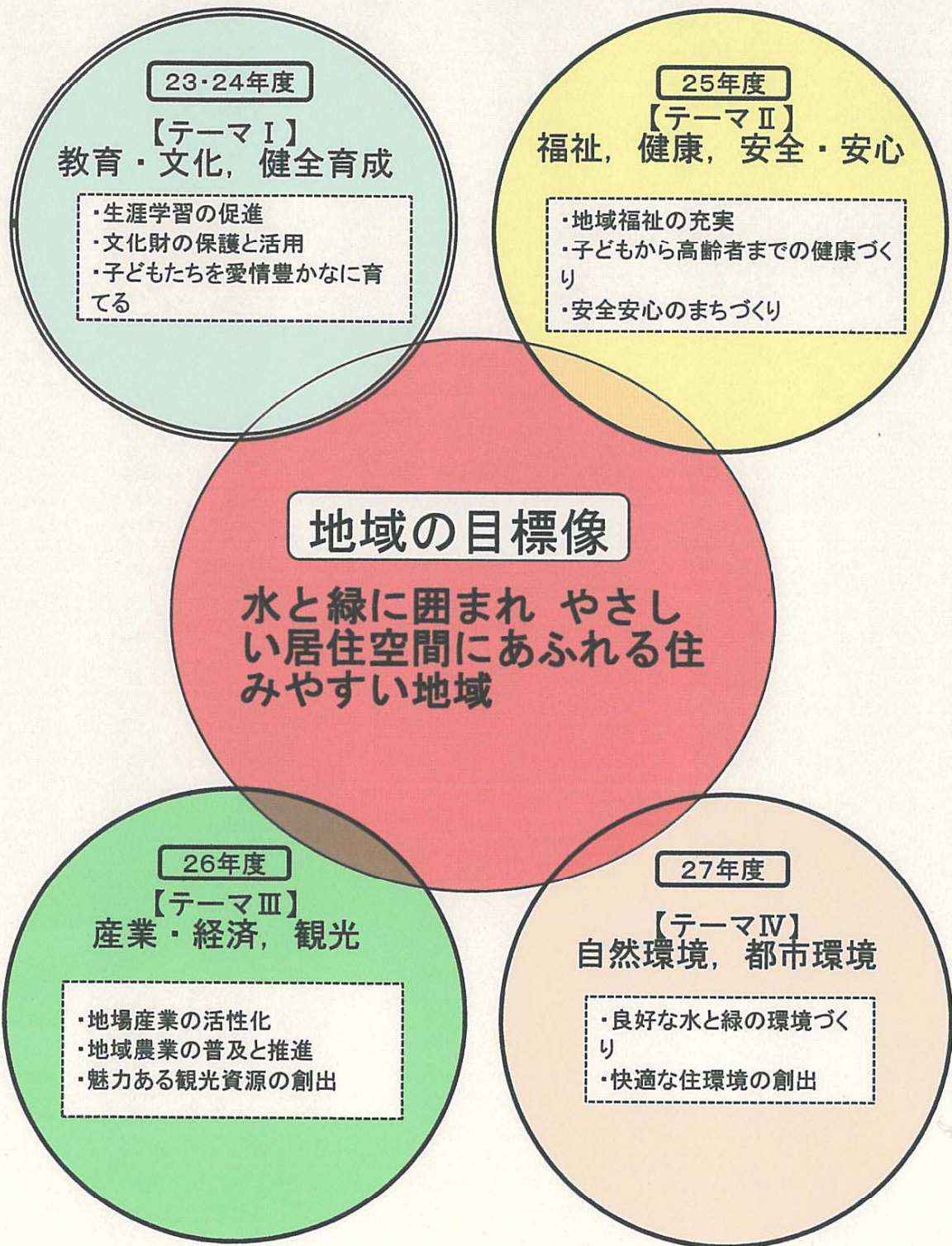


今期（23・24年度）は、4つのテーマのうち「教育・文化、健全育成」について検討し、このテーマについての提案を行いました。

同じように次期の自治会議におきましては、25年度に「福祉、健康、安全・安心」を、26年度に「産業・経済、観光」を検討し、26年度末に合わせて提案します。

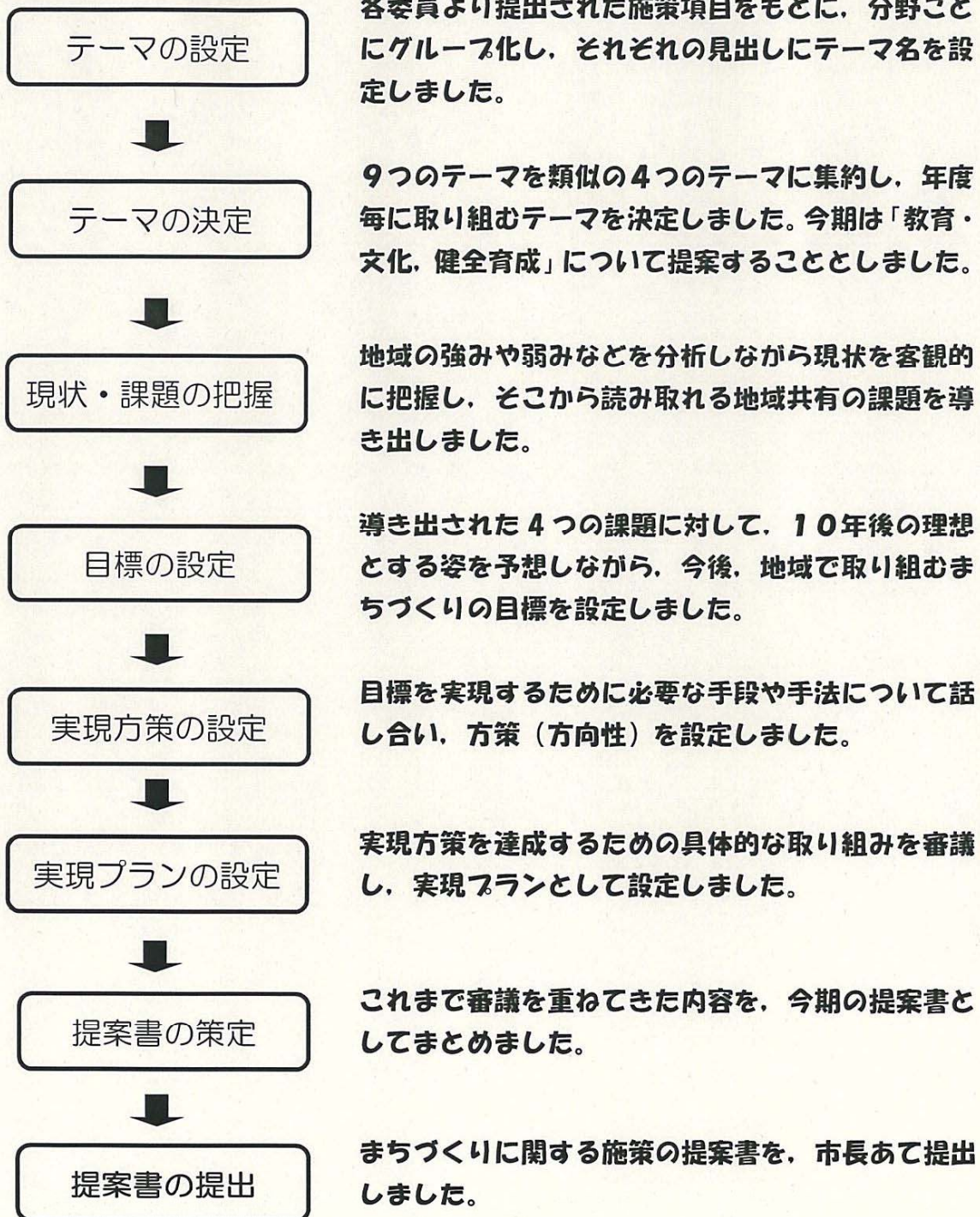
最終期の27年度は、「自然環境、都市環境」について検討し、すべてのテーマが整うこととなります。自治会議の最終年となる28年度には、これら4つのテーマについて、この間の社会状況の変化や第Ⅰ・Ⅱ期の提案等も踏まえて総合的に検討し、10年間の集大成として今後の地域のまちづくりに資する提案を行う予定です。

まちづくり提案の体系図



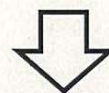
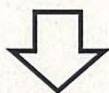
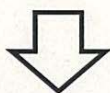
3. 河内地域の「教育・文化、健全育成」についての提案

(1) 提案への取り組み



(2) 現状と課題と目標

	教育	文化	健全育成
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内に教育施設が整っている。 ○子どもの教育環境が整っている。 ●地域や家庭の教育力が低下している。 ●コミュニケーション不足と地域の絆の弱体化が進んでいる。 ●人材の発掘と活用ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の文化財が豊富である。 ○地域の人たちで文化財が大切に保存・伝承されている。 ●地域の文化財を次世代に引き継ぐ後継者が不足している。 ●文化財に関するPRが不足している。 ●文化財を公開する場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に恵まれ、子どもを健全に育成する環境が整っている。 ○青少年育成のための地域の活動が活発である。 ●子どもが自由に遊べる場が減少している。 ●学校と地域住民、各種団体、企業等との連携が不足している。



課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習のさらなる強化・充実を図る必要がある。 ○豊富な自然環境を活かした学習の仕組みをつくる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財をまちづくりに活かす方策をつくる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年の健全育成のさらなる強化・充実を図る必要がある。 ○地域の交流や活動の活性化を一層充実させる必要がある。
----	---	--	---



目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎生涯学習の充実により、子どもから高齢者まで笑顔で暮らせる『まち』 ◎水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる『まち』。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎文化財を活用し、地域の魅力を発信する『まち』。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域のみんが楽しく行事に参加し、交流の盛んな『まち』。
----	--	--	--

(3) 実現方策と実現プラン

【教育】

目 標

生涯学習の充実により、子どもから高齢者まで笑顔で暮らせる「まち」

(実現方策1) 子どもから高齢者まで学べる場をつくる

《実現プラン》

- ①昔遊びなど、地域ボランティアによる集いと学びの場を開設する。
- ②地域内施設で、子どもの作品展示会を開催する。

(実現方策2) 地域が主体となって学びの場をつくる

《実現プラン》

- ①自然や休耕地を活かした農業などの体験学習を開催する。
- ②郷土料理の勉強会を開催する。
- ③「地域の日」を制定する。

(実現方策3) 高齢者の知識や経験を子どもたちに伝える

《実現プラン》

- ①知識や経験を子どもに伝える指導者養成講座を開催する。
- ②地域の達人の人材バンクを創設する。
- ③小・中学校への出前講座を開催する。

目 標

水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる「まち」

(実現方策4) 地域の貴重な自然を守る教育を進める

《実現プラン》

- ①子ども向けの自然観察マップを作成する。
- ②小・中学生に、環境保全の体験型学習や出前講座を開催する。
- ③地域住民を対象に観察会や自然保護セミナーを開催する。

(実現方策5) 地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす

《実現プラン》

- ①自然を活用した散策コースを設定し、散策マップを作成する。
- ②魚のつかみ取り大会を開催する。
- ③田んぼで音楽会を開催する。

(実現方策6) 農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ

《実現プラン》

- ①野菜作りの農業体験を実施する。
- ②特産品を使った料理教室や伝統料理の教室を開催する。
- ③B級グルメのコンテストを開催する。

【文化】

目 標

文化財を活用し、地域の魅力を発信する「まち」

(実現方策7) 文化財を多くの人に知ってもらう

《実現プラン》

- ①文化財の見学コースを設定し、案内マップを作成する。
- ②文化財解説ボランティアによる勉強会（見学会）を開催する。
- ③歴史資料の展示会を開催する。

(実現方策8) 文化財をまちづくりに活かす

《実現プラン》

- ①景観形成重点地区（白沢宿）の観光コースを設定する。
- ②地域ボランティアにより文化財案内所を設置・運営する。
- ③文化財の見学会に併せて、フリーマーケットや特産物の販売を開催する。

(実現方策9) 文化財を守り伝える人材を育成する

《実現プラン》

- ①人材育成の勉強会や講習会等を開催する。
- ②文化財一覧表等を作成し、データ管理を行う。

【健全育成】

目 標

地域みんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな「まち」

(実現方策10) 地域みんなが楽しめる交流の場をつくる

《実現プラン》

- ① 運動会等の各種イベントで河内音頭を普及させる。
- ② 各種イベントを開催する。(連風の競技会・芋煮会・かかしまつり・田んぼの中でスライドや映画の鑑賞会など)
- ③ 空家利用のカフェやおしゃべりサロンを開催する。

(実現方策11) 地域の各種団体や学校との連携を強化する

《実現プラン》

- ① 地域と学校等が連携して子どもの作品展を開催する。
- ② 各種団体による出前講座を開催する。

(実現方策12) 地域活動の指導者を育成する

《実現プラン》

- ① 指導者を育成するカリキュラムを作成し、養成講座を開催する。
- ② 地域ボランティア登録制度を創設する。

4. 審議の経緯

平成23年度

- | | |
|-------------|--|
| 平成23年11月14日 | 第5回自治会議
・先進地視察研修
(栃木市・栃木の例幣使街道を考える会) |
| 平成24年1月17日 | 第6回自治会議
・提案書の策定について協議 |
| 平成24年2月13日 | 第7回自治会議
・テーマの設定について協議 |
| 平成24年3月21日 | 第8回自治会議
・テーマの決定, 個別テーマの現状・課題の抽出 |

平成24年度

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 平成24年4月26日 | 第1回自治会議
・個別テーマの現状・課題のまとめ |
| 平成24年5月30日 | 第2回自治会議
・10年後の目標の設定 |
| 平成24年6月28日 | 第3回自治会議
・目標のまとめ, 実現方策の検討 |
| 平成24年7月24日 | 第4回自治会議
・実現方策のまとめ, 実現プランの検討 |
| 平成24年9月5日 | 第5回自治会議
・実現プランの検討 |
| 平成24年12月5日 | 第6回自治会議
・実行プランのまとめ, 提案書(素案)の審議 |
| 平成25年1月29日 | 第7回自治会議
・提案書(案)の審議 |

【テーマ】教育・文化、健全育成

分野	目標	実現方策	⇒	実現プラン
教育	せも生 るか涯 『ら学 ま高習 ち高の ま充 ま実 で笑 顔り で、 暮ら らど	(1)子どもから高齢者まで学べる場をつくる	⇒	①昔遊びなど、地域ボランティアによる集いと学びの場を開設する。 ②地域内施設で、子どもの作品展示会を開催する。
		(2)地域が主体となって学びの場をつくる	⇒	①自然や休耕地を活かした農業などの体験学習を開催する。 ②郷土料理の勉強会を開催する。 ③「地域の日」を制定する。
		(3)高齢者の知識や経験を子どもたちに伝える	⇒	①知識や経験を子どもに伝える指導者養成講座を開催する。 ②地域の達人の人材バンクを創設する。 ③小・中学校への出前講座を開催する。
	自然と緑を親を しめか る『し ま学 まび 』を 通し、	(4)地域の貴重な自然を守る教育を進める	⇒	①子ども向けの自然観察マップを作成する。 ②小・中学生に、環境保全の体験型学習や出前講座を開催する。 ③地域住民を対象に観察会や自然保護セミナーを開催する。
		(5)地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす	⇒	①自然を活用した散策コースを設定し、散策マップを作成する。 ②魚のつかみ取り大会を開催する。 ③田んぼで音楽会を開催する。
		(6)農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ	⇒	①野菜作りの農業体験を実施する。 ②特産品を使った料理教室や伝統料理の教室を開催する。 ③B級グルメのコンテストを開催する。
文化 財を 『活 用し 』、 地 域 の 魅 力 を	(7)文化財を多くの人に知ってもらう	⇒	①文化財の見学コースを設定し、案内マップを作成する。 ②文化財解説ボランティアによる勉強会(見学会)を開催する。 ③歴史資料の展示会を開催する。	
	(8)文化財をまちづくりに活かす	⇒	①景観形成重点地区(白沢宿)の観光コースを設定する。 ②地域ボランティアにより文化財案内所を設置・運営する。 ③文化財の見学会に併せて、フリーマーケットや特産物の販売を開催する。	
	(9)文化財を守り伝える人材を育成する	⇒	①人材育成の勉強会や講習会等を開催する。 ②文化財一覧表等を作成し、データ管理を行う。	
健全 育 成	ち参地 『加域 し、み 交ん 流な が盛 んし なく 』行 事 に	(10)地域のみんが楽しめる交流の場をつくる	⇒	①運動会等の各種イベントで河内音頭を普及させる。 ②各種イベントを開催する。(連風の競技会・芋煮会・かかしまつり・田んぼの中でスライドや映画の鑑賞会など) ③空家利用のカフェやおしゃべりサロンを開催する。
		(11)地域の各種団体や学校との連携を強化する	⇒	①地域と学校等が連携して子どもの作品展を開催する。 ②各種団体による出前講座を開催する。
		(12)地域活動の指導者を育成する	⇒	①指導者を育成するカリキュラムを作成し、養成講座を開催する。 ②地域ボランティア登録制度を創設する。